

支所だより

東予総合支所

〒799-1394 周布349番地1 TEL0898-64-2700 FAX0898-65-4363

橋に化けた狸
～ぼんぼこ橋～

今年3月、JR壬生川駅に東西自由道路が開通し、「ぼんぼこ橋」と名付けられました。この橋は、駅前と駅西広場をつなぐ全長約50m、幅4mの連絡橋で、自転車ごと乗れるエレベーターも設置され、駅の西側地区からの駅へのアクセス向上や、東西地域の交流促進が期待されています。



▲壬生川駅をまたぐぼんぼこ橋

ではなぜ「ぼんぼこ」なのでしょう。四国は狸伝説が多く、西条市

東予・丹原・小松の各総合支所管内での、身近な出来事や話題などを紹介するコーナーです。

内各地にも西条八堂山のお染め狸、小松高嶋神社のお富狸、丹原生木のお地藏さんのおしぶ狸など多くの化け狸伝説があります。

壬生川駅のある多賀地区にも、屋島の禿狸との腕競べなどの昔話で知られる「喜左衛門狸」の伝説が伝わっていることから、橋の名前が狸にちなんだ「ぼんぼこ橋」となりました。橋の欄干にはユーモラスな狸のイラストがあり、通行人の目を楽しませてくれます。また、駅前広場の各所に喜左衛門狸がいますので、探してみませんか。



▲ぼんぼこ橋欄干のためぎ

丹原総合支所

〒791-0592 丹原町池田1733番地1 TEL0898-68-7300 FAX0898-68-4769

先人の功績に報恩感謝
～渡部権太夫330年忌法要～

貞享3（1686）年6月、徳能村庄屋の渡部権太夫一家5人は、藩政を誹謗した罪により、新市の処刑場で打ち首となりました。

当時、徳能村は松山藩桑村郡に属していましたが、長引く日照りや長雨による凶作で年貢の奉納に苦しんでいました。桑村郡各村の庄屋は、幾度となく松山藩主に年貢の軽減を具申するも聞き入れてもらえず、他の庄屋が諦める中、権太夫は治政を改めてもらうために一人遍路姿で直訴へと旅立つのでした。家族を守ろうとあらかじめ妻と離縁しましたが、母と3人の子もたちは救えませんでした。

それから330年後の今年6月28日、徳能自治会では渡部権太夫の義心に感謝し、供養仏の大師像などの修復を行い、徳能瑞巖寺と墓で330年忌法要を執り行いました。

また毎年4月29日には、5人の慰霊のために建てられた五社霊神という社で、報恩感謝、五穀豊穡を祈願する祭礼が行われています。



▲法要の様子（左：徳能瑞巖寺、右：渡部権太夫の墓）

小松総合支所

〒799-1198 小松町新屋敷甲496番地 TEL0898-72-2111 FAX0898-72-4048

みちしるべ
～街道と道標～

今も昔も、小松は“街道のまち”です。奈良時代の南海道や現在の2つの自動車専用道路といった官道だけでなく、遍路道やこんぴら道、石鎚登山のお山道など、庶民の信仰や文化を支えたさまざまな道も通っていました。人の移動が制限されていた時代にも、多くの旅人がこの地を歩き交い、その流れが文化の里・小松を生んだのかもしれない。残念ながらそれらの多くは往時の姿をとどめてはいませんが、沿道にあった石の道標は、今もまちのそこかしこに残っており、それらをゆっくり見て歩くのも楽しいものです。

道標は、「横峰寺六十七丁」などの文字案内だけで

はなく、指差しのにしりーフが残っています（写真①）。裏面には、施主の名前や設置年月などが彫られ、その中には江戸後期の年号も数多くありますが、JR新宮踏切脇にある、小さくて素朴な石柱は、「天文四年（＝1535年）」と刻まれています（写真②）。戦国の頃から、この地の人たちは旅人の安全を願っていたのです。

取り組みが始まった遍路道の世界遺産化への第一歩は、こうした道標を守りながら、そこに込められた“いにしえ人”の優しい心根を受け継いでいくことなのかもしれません。



①右こんぴら道



②左へんろみち